

The Column コラム



2020年9月22日付山梨日日新聞で、日本とフィンランドの政府風景を象徴する比較写真がツイッター上で話題になっていると取り上げられました。

話題になったとされる写真の1枚は菅義偉首相を中心に自民党幹部の5人が並ぶもので、その平均年齢は71歳を超えています。もう1枚はフィンランドの34歳のサンナ・マリン首相と閣僚の5人の写真です。19名の閣僚のうち4名が30代で、「日本（もこうなるには）は、あと100年かかるかも」とうらやむ書き込みが相次ぎ、フィンランドで若い人がリーダーに就く理由として「国の将来に若い人の力が欠かせないということ」を皆が理解している」と報じられました。

コロナ対策で見てみても、ウイルスの封じ込めの初動に世界でいち早く成功したと言われる台湾ですが、その中心的な役割を担った人物は40歳のオードリー・タン・デジタル担当政務委員です。

フランスのマクロン大統領は根津和博と同

じ年の43歳、ニュージーランドのアーダーン首相は41歳、オーストリアのクルツ首相に至っては34歳です。世界では十分に若い世代が活躍しています。

日本に目を向けみても、このコロナ禍で奮闘し、住民から信頼されている若いリーダーはたくさんいます。大阪府の吉村洋文知事は46歳、市長時代のコロナ対策が評価され、千葉県のリーダーとなった熊谷俊人知事もやっぱり根津和博と同じ年の43歳です。財政再生団体の夕張市を再建に導いた手腕が評価され、道民の期待を受けて転身した鈴木直道知事も40歳です。

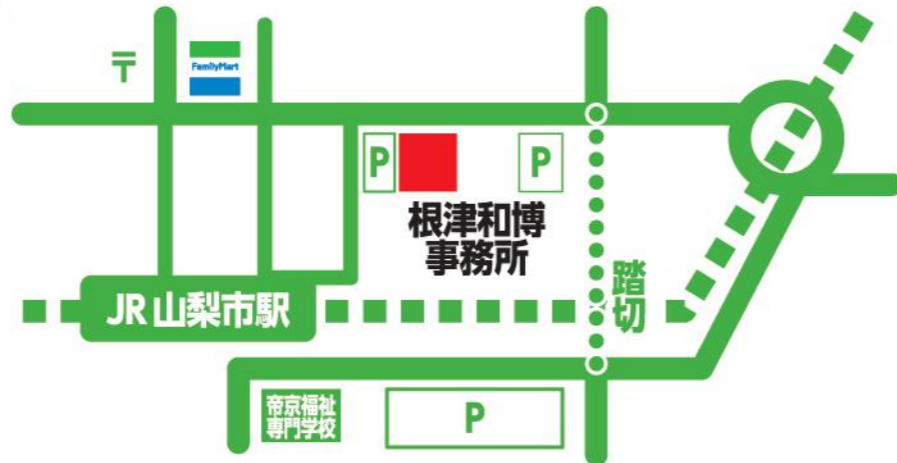
世界でも日本でも「将来のまちづくりには若い力が欠かせない」と若いリーダーが選ばれています。コロナ禍における危機対応やこれからのまちづくりには、将来ビジョンに責任が持てる若いリーダーの登場が期待されています。将来に責任が取れる若い世代がまちづくりをおこなえる環境が山梨市にも求められています。

あなたのやってほしいを根津和博に伝えよう！

下記方法または直接事務所にぜひお気軽にあなたのお声をお聞かせください。

電話
FAX
メール

アンケート
フォーム



発行 ▶ 根津和博と山梨市を「大好きなまち」にする会

〒405-0032 山梨県山梨市正徳寺508-1
TEL 0553-88-9515 FAX 0553-88-9586
Mail daisukiyamanashi@gmail.com HP <https://nezukazuhiro.com/>



根津和博ってどんな人？
1977年生まれ 43才。
高校で出会った妻と大恋愛の末、結婚し、現在は妻と3人の子どもたちと暮らしています。
山梨市が大好きで、まちづくり活動で山梨市の魅力を発信したり、人と人をつなぐ活動をずっと行ってきました。
先が見えない時代だと言われていますが、山梨市の未来は明るいと私は信じています。
「みんなでやるじゃん！」を合言葉に、一緒に未来の山梨市を創りましょう！

月刊根津レポート Monthly Title vol.4 2021年8月下旬発行

一人の力は知れています!! あなたと同じように志を立てて一歩前に進む仲間をつくってみませんか?一人ではできないこともそれぞれの協力で、できる力になることもあります♪

私は、夢中という言葉が大好きです♪ 皆さんは近ごろ「夢中」になったことはありますか?胸を焦がすような!! 身体

が自然と行動に移るような!! あつい想いを!!「志」をたてませんか!!

山梨市を「大好きなまち」にする会は、そんな皆様の期待に応えます(^^^)ご興味のあるかた!!メッセージお待ちしております。

みんなで夢中になるじゃん!!

山梨市議会議員
根津和博

耕作放棄地対策や農産物のブランディング構築など、農業をより強い産業にしていくなりの提案を行ってきました。私自身も、人材派遣業の経営者として新規就農をサポートすることがあるため、現場の大変さはよく分かります。「農業防災計画(仮称)」などを作成し今後10年、50年、100年単位で起こりうるリスクを分析しその対応策を示したり、「山梨市フルーツ世界構想」を描き、山梨市から世界に発信できる果樹産業のビジネスモデルを構築し、孫の代まで安心して農業に携われる強い産業作りに取り組んでいきます。

農業



教育



私は3人の子どもの父親で、子どもたちの不登校に悩んだ経験があり、画一的な教育ではなく、子どもたち1人1人の個性を尊重した教育環境を作りたい強い意志があります。山梨市には、新元号令和の引用元となった万葉集の石碑が多くある、万力公園万葉の森といった文化資産があります。感受性豊かになれるよう地域資源を活用した、教育環境の整備についての提言をこれまで行ってきました。今後はプログラミング教育、対コロナ時代にも配慮したリモートスクーリングなど、ICT教育の更なる推進により、テクノロジーと自然豊かな山梨市の地域文化が融合した新しい教育を進めていきます。

地域 コミュニティ



地域イベントや勉強会の開催など、人が集まる活動を数多く行い、コミュニティの大切さを実感しています。コロナ禍において、人と集まる機会が減っています。そこで、安心して集まることのできる一定基準を作った上で、公民館でヨガや整体教室の開催をするなど、健康を軸にした公民館の活用モデルを作り、山梨市全域でコミュニティの強化を図っていきます。

健康 福祉



私の義理の父が要介護5認定の胃瘻となり、最期まで介護をした経験から、健康政策への思い入れが強いです。そして、森林セラピーのガイドとして、身体を動かす健康作りをライフワークとして取り組んできました。山梨市では、産婦人科、充実した民間病院、24時間訪問看護・介護といったように、一生の医療環境が整っています。今後もこの充実した環境を維持するとともに、より発展させていきます。さらに、豊かな自然環境を活用した、予防医学にも力をいれていき、100才でも健康なまちづくりを進めていきます。

根津和博が 取り組んで きた分野



根津和博は、市議会議員3期
の間にこれらの分野に取り
組んで参りました。

行政 改革



市職員の皆様の能力を最大限発揮できる職場となるように、行政改革に取り組んできました。やる気のある職員の重要ポストでの登用、民間の人材との協働によって、より効率的かつスピーディに組織改革を行うため、私のこれまでの事業経験、地域の皆さんと一緒に取り組んだ地域活動のネットワークを活かしていきます。「民間との50のプロジェクト」を掲げ、民間とのコラボレーションを通じて、市民感覚とスピード感のある行政経営を目指します。

アプリの活用をはじめ、市内のWi-fi環境の整備、デジタル化推進、サテライトオフィス設置によるIT企業の誘致など、ITに関する取り組みを積極的に行ってきました。私自身が15年以上前からWEBを活用してビジネスを行っていたため、ITの重要性を強く感じています。ITは進化がはやいため、最新の動向を見定めて、市政に反映させる必要があります。今後は、IT農業ベンチャーの起業促進を行うなど、山梨市から世界に発信できるIT産業作りを目指しています。並行して、IT弱者のためのサポートも充実させていきます。

IT or デジタル



市民バスの利用率が低迷する中、市民のみなさまの大切な移動手段を維持していくために、市民のニーズに合わせた運行体系を取れるデマンド交通の導入を提言してきました。朝夕の通勤、通学時間帯は循環バス、それ以外の利用の少ない時間はデマンド交通というように、より綿密なバス体系を構築し、市民のみなさまがより移動しやすい環境を作ります。同時に、子どもたちの通学路の点検や山間部の道路点検も行い、安全な道路環境を整えます。

生活 の足



女性



私は、1男5女で育ったこともあり、アパレル経営時代は、レディース服と子ども服をメインに取り扱っていました。そして、託児施設を運営していたこともあります。その中で、女性の子育てと仕事との両立の大変さや、給与面の格差の悩み相談を数多く受けてきました。これまで、子ども医療費の負担軽減、学童の拡充に対する取り組みを行ってきましたが、今後はより女性の要望を取り入れていけるように、女性の声が市政にダイレクトで届く仕組みを作っていきます。「女性に優しい社会はすべてに優しい社会」と捉えていきます。